

障害者の住まい方に関する調査について

1 調査の目的

障害者が住み慣れた地域で安心して生活していくためには、暮らしの基盤となる住まいの確保が不可欠である。障害者の個々の状況によっては、グループホームなど、居住の場の充実が必要となる。

そこで、グループホームへの入居など、障害者自身や家族の将来の住まい方へのニーズを把握し、今後の施策展開の参考とするため、本調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査の対象

区内在住の知的障害者、精神障害者、身体障害者および難病患者（約 8,000 人）

(2) 調査方法

郵送による調査票への記入方式

(3) 調査項目数

約 25 項目（詳細別紙）

- ① 障害者手帳の所持など本人の状況に関すること
- ② 家族との同居の状況など現在の住まいの状況に関すること
- ③ 将来の住まいの希望に関すること
- ④ 在宅で生活する上で希望するサービスに関すること
- ⑤ グループホームの入居を希望する際に重視することなどグループホームに関すること

3 今後の予定

平成 28 年 8 月～10 月 調査票の発送・回収

11 月～1 月 集計・分析

平成 29 年 2 月 調査のまとめ

健康福祉委員会へ報告

4 調査用紙の案

別紙のとおり